



# エコアクション21

## 環境活動レポート



<期間：2021年4月～2022年3月>

発行 2022年6月18日

静岡マツダ株式会社

Shizuoka-Mazda Co.,Ltd.



# 目次

1. 環境経営方針	2
2. 事業活動の概要	3
3. 実施体制	5
4. 2021 年度環境活動計画・目標	7
5. 環境活動の取組結果の評価	9
6. 環境への独自取組	13
7. 2022 年度の活動目標・活動計画	16
8. 環境関連法規への違反・訴訟の有無	17
9. 社内監査報告	18
10. 代表者による全体評価と見直し	19

# 1. 環境経営方針

静岡マツダ 株式会社

## 環 境 経 営 方 針

### <基本理念>

静岡マツダ株式会社は、自動車販売・自動車整備などの全ての事業活動において、お客様、地域の皆様を念頭に自然との調和を図りながら、地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します。

### <行動指針>

1. 環境に関する法規制を遵守します。
2. 限りある資源を大切にするため、省資源・省エネルギーに努めます。  
化学物質使用量の適正管理と節水に努めます。
3. 使用済み自動車の適正処理、リサイクルを推進します。
4. 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・再使用・再利用活動を推進します。
5. 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
6. 環境に配慮した商品・サービスの提供に努めます。  
燃料消費効率の良い車種の販売、エコ整備・エコ車検・エコ点検等の推進
7. 環境保全のため、グリーン購入を推進します。
8. 全従業員にこの環境方針を周知徹底するとともに、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日： 2008年9月1日

改定日： 2020年4月1日

静岡マツダ 株式会社

代表取締役社長

鈕持 豊

## 2. 事業活動の概要

(1) 事業社名及び代表者

静岡マツダ株式会社

代表取締役社長 鋳持 豊



浜松志都呂店

(2) 所在地

〒422-8004

静岡県静岡市駿河区国吉田1丁目20番28号

(3) 事業内容

- ・乗用車・商用車の新車販売
- ・中古自動車販売
- ・部品・用品などの販売
- ・自動車整備業（車検・点検・修理等）
- ・損害保険代理業
- ・電気の販売に関する業務

(4) 事業の規模

1) 店舗数 : 静岡県下全域 27 店舗

2) 対象店舗数 : 本社及び 27 店舗（次頁）

従業員数 582 人

売上高 20,003 百万円

(5) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	管理本部 本部長	鈴木 正史
EA21 環境推進事務局	管理本部 管理部	中村 拓雄 藤谷 純平
		山下 竜範 中村 一彦
	営業本部 サービス営業部	稲葉 啓朗

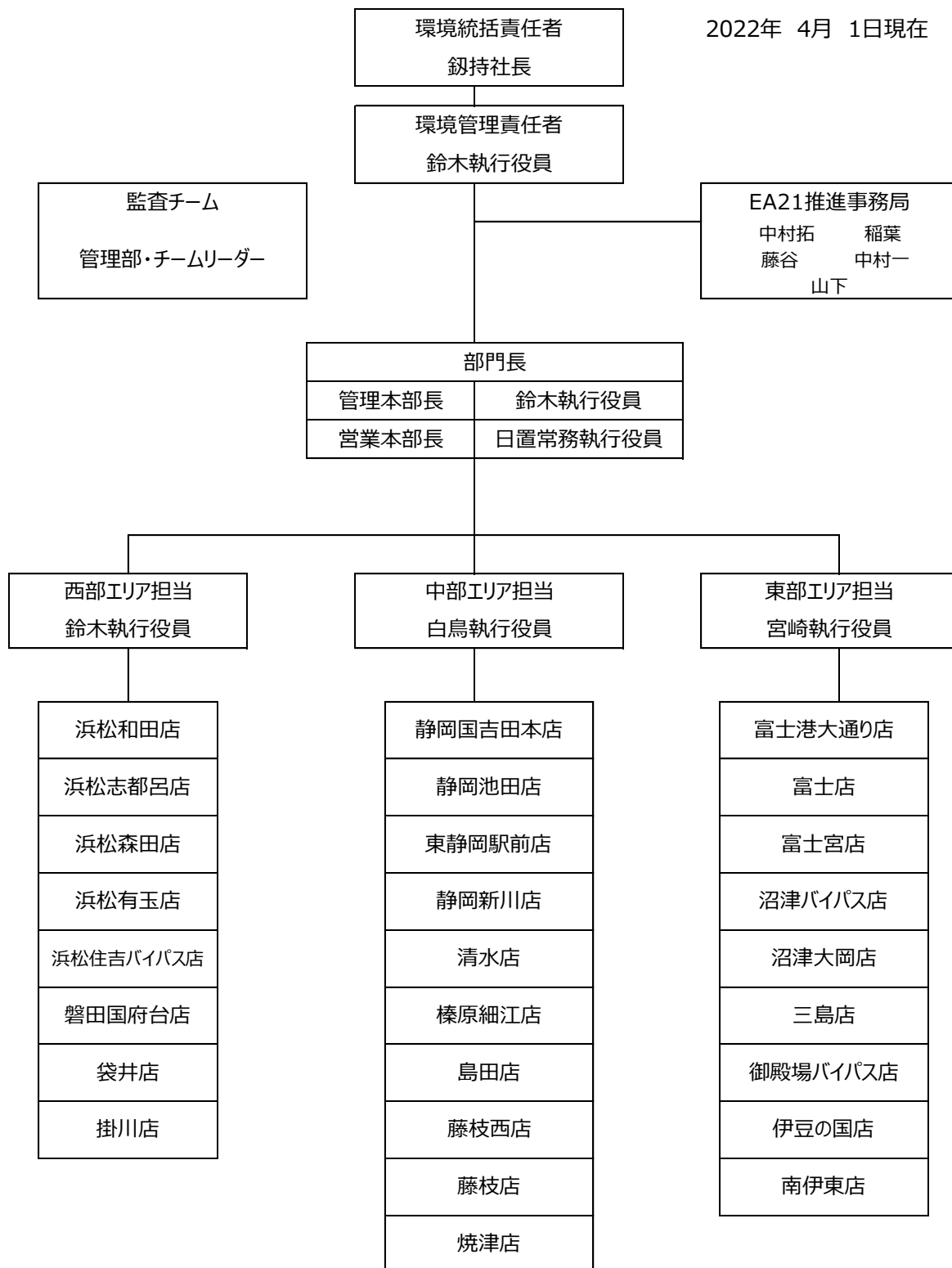
連絡先 TEL : 054-261-1237

FAX : 054-261-9149

## (6) 対象店舗

	店名	〒	住 所	電話番号
	本社	422-8004	静岡市駿河区国吉田 1 丁目 20-28	054-261-1237
1	静岡国吉田本店	422-8004	静岡市駿河区国吉田 1 丁目 20-28	054-261-1234
2	静岡池田店	422-8005	静岡市駿河区池田 157-1	054-262-1570
3	東静岡駅前店	420-0813	静岡市葵区東静岡 1 丁目 1-20	054-261-9131
4	静岡新川店	422-8064	静岡市駿河区新川 2 丁目 6-36	054-284-0777
5	清水店	424-0053	静岡市清水区渋川 146	054-348-1181
6	榛原細江店	421-0421	牧之原市細江 333	0548-22-1234
7	島田店	427-0053	島田市御飯屋町 8789-1	0547-37-6255
8	藤枝西店	426-0076	藤枝市内瀬戸 138-1	054-641-3766
9	藤枝店	426-0005	藤枝市水守 1 丁目 15-13	054-644-2261
10	焼津店	425-0041	焼津市石津 580-1	054-624-3138
11	浜松和田店	435-0016	浜松市東区和田町 711	053-461-6161
12	浜松志都呂店	432-8069	浜松市西区志都呂 2 丁目 11-8	053-445-4106
13	浜松森田店	432-8047	浜松市中区神田町 383-1	053-441-5171
14	浜松有玉店	431-3122	浜松市東区有玉南町 530	053-433-7775
15	浜松住吉バイパス店	433-8113	浜松市中区小豆餅 3-19-8	053-436-7185
16	磐田国府台店	438-0077	磐田市国府台 68-7	0538-32-8181
17	袋井店	437-0064	袋井市川井 1123-5	0538-43-2256
18	掛川店	436-0048	掛川市細田 528-1	0537-22-7284
19	富士港大通り店	417-0048	富士市高島町 59	0545-52-6331
20	富士店	417-0035	富士市津田町 5	0545-52-1115
21	富士宮店	418-0014	富士宮市富士見ヶ丘 12	0544-23-2411
22	沼津バイパス店	410-0007	沼津市西沢田 475-1	055-925-2600
23	沼津大岡店	410-0022	沼津市大岡日吉町 1557	055-962-8181
24	三島店	411-0811	三島市青木 145-1	055-971-5370
25	御殿場バイパス店	412-0044	御殿場市杉名沢 348-1	0550-82-2552
26	伊豆の国店	410-2317	伊豆の国市守木 818	0558-76-3121
27	南伊東店	414-0035	伊東市南町 2-1-17	0557-37-8100

### 3. 実施体制



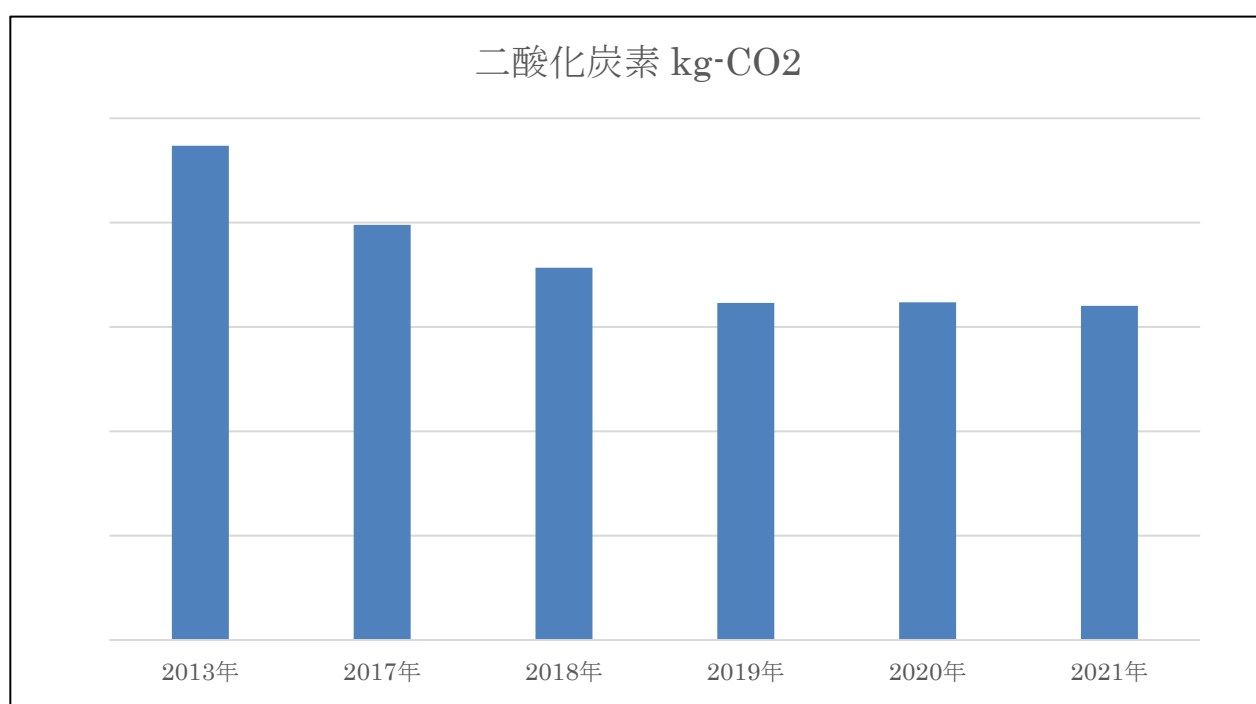
担当者	役割
環境統括責任者 <代表者・社長>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境マネージメントシステム（以下 EMS）に関する統括責任者</li> <li>・EMS の実施及び運用に必要な人、設備、費用、時間を用意</li> <li>・環境管理責任者の任命</li> <li>・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員への周知</li> <li>・環境経営目標の設定を承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>・環境レポートの承認</li> <li>・経営における課題とチャンスの明確化</li> </ul>
環境管理責任者 <役員・管理部門長>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務上の責任者として、環境取り組みを推進                ※代表者は、環境経営活動の実務に関して全部門に対する指揮命令権限を委譲</li> <li>・EMS の構築、実施、管理</li> <li>・環境活動計画書、環境法令とりまとめリスト等の承認</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境レポートの確認</li> </ul>
エコアクション 21 推進事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者をサポートしエコアクション 21 推進事務局として環境取り組みを推進</li> <li>・店舗の環境取り組みの指導、支援</li> <li>・環境データの集計、取りまとめ</li> <li>・全社環境委員会の事務局</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全社環境委員会のメンバーとして、全社の環境取り組みを推進</li> <li>・担当部門の環境取組の責任者</li> </ul>
監査チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部監査計画の策定</li> <li>・内部監査を計画に沿って実施</li> <li>・内部監査の結果に基づき改善項目の進捗状況を確認</li> </ul>
各エリア担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当エリア内の店舗の環境取組の管理</li> </ul>
店舗環境管理責任者 <正：店長 副：サービスマネージャー>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店長：店舗の環境取り組み全体の責任者として、店舗環境取組の推進、管理</li> <li>・サービス Mgr：MECA21 を中心にサービス領域の環境取組に責任を持つとともに店舗全体の環境取組において店長をサポートする</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">MECA21 ～Mazda'sEnvironmentCareApproach21～</p> <p>マツダ(株)がエコアクション 21 認証にあたり、環境関連法令の遵守状況を自己診断する仕組み</p>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営方針の理解と環境取り組みの重要性の理解</li> <li>・環境活動、社会貢献活動への自主的、積極的な参加</li> </ul>

## 4. 環境活動計画・目標

### 近年の実績推移

		2013年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	2,367,414	1,988,572	1,783,723	1,615,673	1,617,931	1,601,881

(注1) 事業年度は4月～3月です。(注2) 上記実績は本社及び全店舗合計です。



### <2021年度の取組>

1. マツダ「サステナブル“Zoom – Zoom”宣言 2030」の取り組みの考え方を踏まえ、より環境に負荷をかけない数値となるように修正し目標を設定しました。
2. 基本的取組は継続します。
3. 最新の環境性能を装備した車両や、環境に配慮した整備など、お客様へ有益な情報を提供することによって環境負荷の低減に努めます。



## 中期環境経営目標

二酸化炭素総排出量を 2050 年までに 2013 年比 80%以上削減することを視野に、2030 年まで 30%以上削減することを目指します。2019 年度を基準として毎年 3%削減することを目標として算出。

項 目		2019年度(基準年)		2021年度		2022年度	
		実績	売上当り	目標	売上当り	目標	売上当り
二酸化炭素排出量	Kg-Co2	1,615,673	74.0	1,520,180	69.6	1,474,570	67.5
電力使用量	kwh	2,322,376	106.3	2,185,120	100.1	2,119,570	97.0
ガソリン使用量	L	140,895	6.5	132,570	6.1	128,590	5.9
軽油使用量	L	69,215	3.2	65,130	3.0	63,180	2.9
燃料合計	L	210,110	9.6	197,700	9.1	191,770	8.8
廃棄物排出量	t	501.1	0.02	480.0	0.02	470.0	0.02
水使用量	m3	19,949	0.9	18,770	0.9	18,210	0.8
i-ACTIVENSENSE重要事項確認書の取得	%	100		100		100	

項 目		2023年度		2024年度		2030年度	
		目標	売上当り	目標	売上当り	目標	売上当り
二酸化炭素排出量	Kg-Co2	1,430,330	65.5	1,387,420	63.5	1,155,690	52.9
電力使用量	kwh	2,055,980	94.1	1,994,300	91.3	1,661,200	76.1
ガソリン使用量	L	124,730	5.7	120,990	5.5	100,780	4.6
軽油使用量	L	61,280	2.8	59,440	2.7	49,510	2.3
燃料合計	L	186,020	8.5	180,440	8.3	150,310	6.9
廃棄物排出量	t	460.0	0.02	450.0	0.02	390.0	0.02
水使用量	m3	17,660	0.8	17,130	0.8	14,270	0.7
i-ACTIVENSENSE重要事項確認書の取得	%	100		100		100	

電力のCO<sub>2</sub>調整後排出係数は、オリックス電力 0.485、中部電力 0.457、東京電力 0.468 (kg-co<sub>2</sub>/kwh) を使用しております。  
化学物質の使用量は、少量のため目標は設定せず適正管理とします。

## 5. 環境活動の取組結果の評価

### 2021年4月～2022年3月の実績

項目	単位	2021年度		実績		
		目標	売上当り	売上当り	評価	
二酸化炭素排出量	Kg-Co2	1,520,180	69.6	1,601,881	73.5	△
電力使用量	kwh	2,185,120	100.1	2,325,379	106.7	△
ガソリン使用量	L	132,570	6.1	143,935	6.6	△
軽油使用量	L	65,130	3.0	56,528	2.6	○
燃料総使用量	L	197,700	9.1	200,464	9.2	△
廃棄物排出量	t	480.0	0.02	501.3	0.02	△
水使用量	m3	18,770	0.9	18,485	0.8	○
i-ACTIVESENSE重要事項確認書の取得	%	100		100		○

評価基準 ○：-20%～ △：0%～+10% ×：+10%～

#### ■電力使用量の削減……部門長、店長

##### 【具体的取組】

##### 1) クールビズ実施 5/7～10/30

上記期間において2021年度もクールビズ期間として、ノーネクタイ、ノージャケットで勤務いたしました。お客様から見て不快にならない清潔感のある服装を心がけました。

気候によってはクールビズ期間を延長、無駄な空調を使わないよう気温など、実情を考慮しました。

##### 2) 空調管理（事務所：暖房20度、冷房28度 ショールーム：暖房22度、冷房26度）

事務所内は業務に支障をきたさないことを前提に温度設定しました。ショールームは、お客様が快適に過ごせる温度に設定し、日中や夕方は、ブラインドやシーリングファンを適切に併用して節電に努めました。

##### 3) 就業時間の管理徹底

スタッフひとりひとりが時間を意識し取組、無駄な残業を削減し電気使用量の削減に繋がりました。

##### 【評価】

電力使用量 …… △ 売上当り 対目標 +6.6%増加、対前年 +0.7%増加

対目標、対前年ともに増加しました。クールビズや就業時間の管理は浸透できたが、空調管理について、コロナ感染症の拡大防止のため、今まで以上の換気が必要となり冷暖房にかかる電力量が増加しました。

## ■ 燃料の削減……部門長・店長

### 【具体的取組】

#### 1) エコドライブ 10 のすすめに準じた運転を周知徹底

ガソリン、軽油を合計した総燃料使用量を減少させるべく、従業員にエコドライブ 10 のすすめの意識付けをしました。全従業員、特に社有車を運転する機会のあるスタッフには、安全運転の励行とあわせエコドライブを心がけるよう周知徹底し続けています。

#### 2) 業務車両、サービスカーの最新化

業務で使用する車両や、整備代車として使用する車両をマツダの環境技術、安全技術を採用した車両へ順次入れ替えます。

### 【評価】

ガソリン使用量 ……△ 売上当たり 対目標 +8.2%増加、 対前年 △9.6%減少

軽油使用量 ……○ 売上当たり 対目標 △13.3%減少、 対前年 △7.1%減少

燃料総使用量 ……△ 売上当たり 対目標 +1.1%増加、 対前年 △8.9%減少

燃料総使用量は目標を上回ったものの、対前年ではガソリン使用料、軽油使用料、総使用量ともに前年を下回る結果となりました。本部スタッフによる店舗運営支援が定着し業務用車の使用頻度が固定化した一方で、コロナ感染拡大により部品供給が滞り、完成車の生産が遅延したことにより、デモカーやサービスカーの配備が減少したことが影響したと考えられます。社員に対するエコドライブの啓発活動は継続できています。

## ■ 廃棄物の削減……部門長・サービス Mgr

### 【具体的取組】

#### 1) 分別廃棄の徹底

廃棄物の分別廃棄を徹底しました。リサイクルできるものを適切に処理できるように、排出先や最終処分の状況まで確認し廃棄物を減量していきます。静岡マツダとしての廃棄物減少だけでなく、限りある資源を大切にするという考えを持って、環境対策を行ないます。

#### 2) 化学物質の適正管理

P R T R 制度対象物質使用状況の把握及び管理を継続しました。

### 【評価】

評価 廃棄物排出量 ……△ 対目標をわずかに上回ったもの対前年もわずかに下回りました。

廃棄物の分別廃棄の徹底、排出先の適正化が出来ました。化学物質について、環境配慮がされている製品への切替をすすめて参ります。

■水使用量の削減……店長・サービスM g r

【具体的取組】

1) 節水の呼びかけ、設備の点検

洗車用ホースへストップノズルを取付ける。設備が正常に作動するように維持します。

【評価】

評価 水使用量 …… ○ 売上当たり 対目標 △11.1%減少、対前年は0.8 m<sup>3</sup>で変わらず。  
ストップノズルによる水の無駄使いを防止、全社で行動が定着している。

■マツダの最新技術を採用した車種の販売……部門長・店長

【具体的取組】

1) 車両販売による環境負荷の低減

マツダの走る喜びと優れた環境性能を備えた新型車両の販売

2) 事故のないクルマ社会の実現

「MAZDA PROACTIVE SAFETY (マツダ・プロアクティブ・セーフティ)」の思想に基づく安全技術を搭載した新型車の販売。安全技術搭載車両については新車納車引渡時までに、重要事項確認書にて、ご説明させていただきます。

## 2021 年度目標 対象者 100% 取得

⑧ 重要事項

**マツダ先進安全技術「i-ACTIVESENSE (アイ・アクティブセンス)」を安全にお使いいただく上での重要事項確認書**

i-ACTIVESENSE (アイ・アクティブセンス) とは、カメラやレーダーセンサーなどの検知システムを利用したマツダの先進安全・運転支援システムの総称です。ご契約に際し、i-ACTIVESENSE を正しくご理解いただき、安全にお使いいただくための重要事項についてご説明いたします。

ご使用になる際のお客様へのお願い

- 運転者には安全運転の義務があります。運転者は各システムを過信せず、常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ご自身の操作で安全を確保してください。
- 各システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすと思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ご使用前には、あらかじめ取扱説明書で各システムの特徴や操作方法、作動条件などを必ずご確認ください。

<p><b>■ i-ACTIVESENSE 共通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各システムは、運転者の安全運転を前提とし、衝突回避の支援、あるいは衝突被害の軽減を目的としています。その効果は様々な状況条件により変わります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、各機能には限界がありますので、システムを過信せず、安全運転を心がけてください。</li> <li>● 天候状況・道路状況・周辺環境・検知対象物の状態などによっては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動すること、あるいは衝突の可能性があってもシステムが作動しないことがあります。</li> <li>● フロントウィンドウガラス、フロントグリル、フロントバンパー、リアバンパー、ドアミラーに設置したカメラやセンサーで対象物を検知しています。センサー周辺は常に汚れないように保ってください。センサー周辺が傷ついたり、汚れ・水滴・油膜・ステッカー・異物などが付着している、またはそれらの痕跡が不十分な場合、対象物を検知できない・誤検知する場合があります。</li> <li>● 被害に車や壁などに向かって進行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対にやめください。</li> </ul> <p><b>■ アドバンス・スマート・シティ・ブレーキ・サポート / スマート・シティ・ブレーキ・サポート [前進時] / スマート・ブレーキ・サポート / スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● あくまでも衝突時の被害を軽減するシステムです。日常のブレーキ操作のわりには絶対にはたきません。システムを過信してアクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に周囲の安全や、前方車や後続車と車間距離を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。</li> <li>● 対象物 (特殊な外観の車両・部分的に見えている / 隠れている車両や障害物・レーダー波または超音波を反射しにくいなど)、天候状況 (雨・雪・霧など)、道路状況 (カーブが多い・起伏が激しいなど) などの条件によっては適切に作動しない場合があります。常に前方車や後続車との車間距離を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。</li> <li>● 運転者がアクセルやハンドルを強く操作した場合は、運転者の意志による回避操作と判断され、システムが作動しない場合があります。</li> <li>● 前後車線の走行車線や道路状況、周辺環境などによっては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動することがあります。</li> </ul> <p><b>■ A/T 誤発進抑制制御 [前進時 / 後退時]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ペダルの踏み間違えによる事故を回避するものではありません。(軽減するもの。)</li> <li>● 道路状況 (急カーブ・急な坂道など)、天候状況 (雨・雪・霧など)、障害物の形状 (低い・小さい・幅がないなど) の条件によっては適切に作動しない場合があります。必ず、車間周辺の安全をミラーや目視で直接確認してください。また、シフトやペダルの位置を十分に確認して操作してください。</li> </ul>	<p><b>■ マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール / マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動運転システムではありません。</li> <li>● 対象物 (レーダー波を反射しにくい形状の車両など)、天候状況 (雨・雪・霧など)、道路状況 (カーブが多い・起伏が激しいなど) などの条件によっては適切に作動しない場合があります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや、相手が割り込んできたときは十分な減速が必要です。前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。常に前方車や後続車との車間距離を確認し、必要に応じてブレーキやアクセルを操作してください。</li> <li>● 高速道路や自動車専用道路以外の一般道での使用はお控えください。急なカーブや交差点が多く車間距離が十分にとれない道路、頻りに加減速を繰り返すような道路で使用すると思わぬ事故につながる恐れがあるためお控えください。</li> </ul> <p><b>■ レーンキープ・アシスト・システム &amp; 車線逸脱警告システム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動運転システムではありません。</li> <li>● 天候状況 (雨・雪・霧など)、道路状況 (急カーブ・車線幅が極端に広い / 狭い・車線の白線 (黄線) が見えにくいなど) の条件によっては適切に作動しない場合があります。常にハンドル操作で車線を修正してください。</li> </ul> <p><b>■ ブラインド・スポット・モニタリング / リアビュー・モニタリングシステム / リア・クロス・トラフィック・アラート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 天候状況 (雨・雪・霧など)、接近車両の状況 (接近してこない・並走しているなど)、道路状況 (車線幅が極端に広い / 狭いなど)、隣接する壁や駐車車両の状況などの条件によっては適切に作動しない場合があります。必ず、周辺安全をミラーや目視で直接確認してください。</li> <li>● レーダーセンサー (リア) 付近のリアバンパー上に水や雪などが多量に付着したときは、BSM OFF 表示灯を点灯させ、システムの作動を停止します。(水、雪や泥が付着しているときはこれらを取り除いてください。)</li> <li>● トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車などのキャリアなどを搭載した場合は、システムを解除してください。レーダーの電波がさげられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。</li> </ul> <p><b>■ アダプティブ・LED・ヘッドライト / ハイビーム・コントロールシステム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 周囲に光源があるとき (板状・点光源など)、天候状況 (雨・雪・霧など)、道路状況 (カーブが多い・起伏が激しいなど) などの条件によっては適切に作動しない場合があります。状況に応じてハイビームとロービームを手動で切り替えてください。</li> </ul> <p><b>■ 360°ビュー・モニター</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● カメラの撮影範囲やセンサーの検出範囲には限界があります。また、モニターに映し出す映像は、実際の状況とは異なることがあります。必ず、周辺の安全をミラーや目視で直接確認してください。</li> </ul>
--	--

上記項目の説明を受け、内容を理解しました。	販売店名	店舗名	担当者	
年   月   日   ご署名				

※ご契約された車種並びにグレードによって、装備されている先進安全技術は異なります。

### 【評価】

対象 3,635 台 100%重要事項説明書を取得・・・○

新車ご注文のタイミングまでに、重要事項確認書にて、マツダ先進安全技術をご説明させていただきます。説明状況を本部にて確認します。

「i-ACTIVESENSE」はマツダが目指す安全性能の考え方「Mazda Proactive Safety (マツダ・プロアクティブ・セーフティ)」に基づき開発した先進安全技術の総称です。認知 支援を行いドライバーの安全運転をサポートするアクティブセーフティ技術に加え、事故が避けられない状況での衝突回避・被害軽減を図るプリクラッシュセーフティ技術で構成されています。

次年度についても、新車ご注文のタイミングまでに重要事項確認書にて、100%ご説明させていただきます。

12

## 6. 環境への独自取組

### マツダの環境配慮型店舗 – 新世代店舗 –

マツダでは近年、新世代店舗と呼ぶ新しいコンセプトの店舗に改修、建替を進めています。新世代店舗では、お客様にマツダブランド(商品・人)の本質を感じていただけるような設計をしています。その中でも太陽光発電などの環境に配慮した設備を整え、持続可能な社会形成に貢献します。



富士宮店

LED 照明、エアコン範囲設定細分化、シーリングファン、ブラインド、トップライト、節水型トイレなど。

### 太陽光発電

単位 kwh	稼働開始	2021 年度	2020 年度	2019 年度	2018 年度
伊豆の国	2013/2/1	28,772	28,641	28,433	29,936
静岡 BC	2013/6/1	47,215	45,694	47,323	47,885
掛川	2014/2/1	22,137	25,695	21,373	32,922
浜松和田	2014/3/1	35,752	43,248	45,988	49,602
焼津	2015/2/23	49,464	36,937	37,298	37,334
藤枝西	2015/8/6	50,049	47,964	49,068	49,564
静岡池田	2016/12/25	33,997	34,360	42,243	21,439

2022 年 4 月現在当社では上記 7 ヶ所で再生可能エネルギー設備を備えています。

静岡池田店については自家消費、その他の店舗は全量売電



藤枝西店 太陽光発電システム

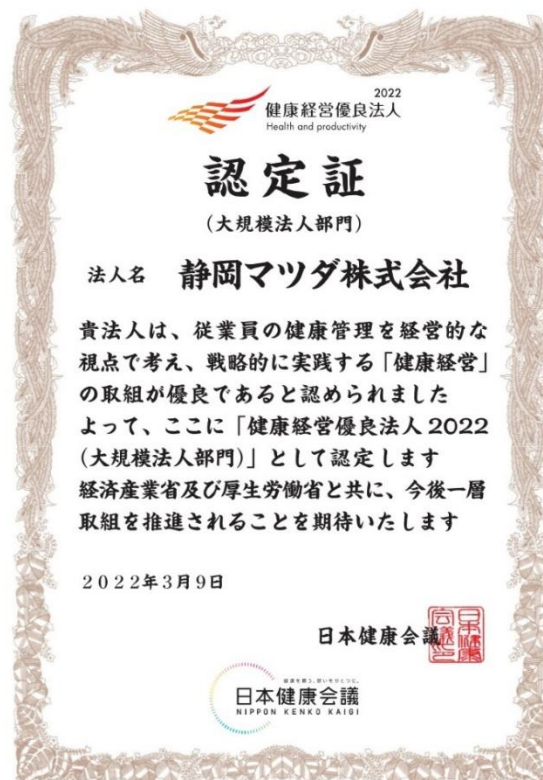
## 社会貢献活動

1. アースアワー2022 参加  
2022/3/27 に全世界で実施されました。  
2021/6/21 7/7 にはライトダウンキャンペーンに参加しました。
2. 花咲く伊豆の国推進協議会協賛  
2019 年度より継続し 伊豆の国市の景観取組に参画しました。
3. エコキャップ回収運動  
2021 年度寄付実績 13,330 個  
2017 年度からの継続取組 累計 46,956 個
4. 献血 2021/4/23 11/15 の2回、静岡国吉田本店にて実施。献血者 28 名
5. インターンシップ受入 2021/12/1～12/4 他 大学生・高校生を受け入れました。
6. マツダ(株)共同募金活動

## 健康経営優良法人

社員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人として、健康経営優良法人の認定を取得することが出来ました。

健康を意識した生活（働き方）、仕事とプライベートの両立が出来ているか、検証しながら、より良い業務生活を目指してまいります。



## SDGs（持続可能な開発目標）宣言

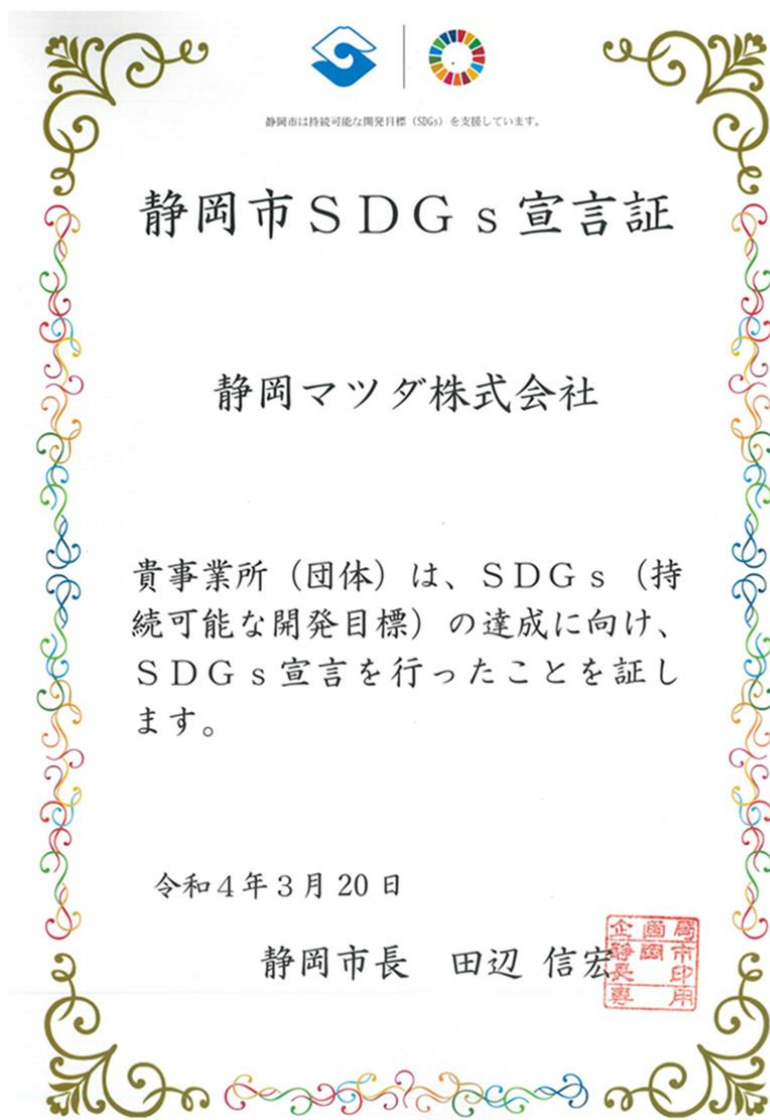
SDGs 宣言書を申請し、静岡市より『SDGs 宣言証』が交付されました。

2022年度取組み目標は、

**「全社員が SDGs について理解・共有する」**

を重点目標としています。

静岡マツダ株式会社は、自動車販売・自動車整備などの全ての事業活動において、お客様、地域の皆様を念頭に自然との調和を図りながら、地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します。





## 7. 2022年度の活動目標・活動計画

### 2022年度の環境経営目標

項目	単位	2022年度	
		目標	売上当り
二酸化炭素排出量	Kg-Co2	1,474,570	67.5
電力使用量	kwh	2,119,570	97.0
ガソリン使用量	L	128,590	5.9
軽油使用量	L	63,180	2.9
燃料総使用量	L	191,770	8.8
廃棄物排出量	t	470.0	0.02
水使用量	m3	18,210	0.8
i - ACTIVESENSE重要事項確認書の取得	%	100	

#### < 2022年度の取組 >

マツダ「サステイナブル “Zoom-Zoom” 宣言 2030」の取り組みの考え方を踏まえ、より環境に負荷をかけないように取り組みます。

基本的取組は継続します。

## 8. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

当社に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

評価日 2022年4月1日

評価者 環境管理責任者 鈴木正史

法令・条例		適用される要求事項	遵守結果
法令	大気汚染	自動車 NOX・PM 法	自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質等の排出量削減に努める ○
	水質汚濁	水質汚濁防止法	特定施設の届出（自動式車両洗浄施設） ○
		下水道法	特定施設の届出（自動式車両洗浄施設、洗車施設） ○
		浄化槽法	設置または変更時の届出 ○ 保守点検、定期検査 ○
	振動・騒音	振動規制法	規制基準の遵守 ○
			特定施設の届出 ○
		振動規制法	規制基準の遵守 ○
			特定施設の届出 ○
	化学物質 危険物	PRTR 法	指定化学物質の移動量把握・届出 ○
		消防法	危険物取扱者の設置保管量の遵守 ○
		労働安全衛生法	化学物質の有害性等の調査及び健康障害防止措置 ○
	廃棄物 リサイクル	資源有効利用促進法	再資源化製品のリサイクルへの協力（適正廃棄） ○
		廃棄物処理法	産業廃棄物の適正処理 ○
			マニフェスト交付状況の報告 ○
			特別管理産業廃棄物責任者届出 ○
			収集・運搬・処理委託業者との契約締結 ○
		自動車リサイクル法	使用済自動車の引渡義務 ○
			使用済自動車の引き取り業者への引き渡し ○
	家電リサイクル法	特定家庭用機器廃棄物の収集・運搬をする者等への適切な引き渡し、料金の支払 対象なし	
	地球環境保全	フロン排出抑制法	定期点検、管理 ○
フロン類回収業者へのフロン類の引渡義務 ○			
静岡県条例	静岡県生活環境の保全等に関する条例	振動・騒音基準の遵守 ○	
		振動・騒音の届出 ○	
	静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	産業廃棄物管理責任者の設置 ○	
		委託先の実地確認と記録の保存 ○	

関係機関からの違反等の指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありません。

## 9. 社内監査

### 2022 年度 エコアクション 21 監査報告

エコアクション 21 事務局  
2022 年 3 月 31 日  
実施者：管理部

#### 【実施概要】

今年度はコロナ禍のため、店舗訪問を控え、自己チェックシートを使用した店長のチェックと電話等による聞き取りにて、エコアクション 21 に関する監査とした。

2022 年 3 月 28 日に店長宛に自己チェック表を展開、4 月 4 日までに全店長から回答を得た。

当社では店舗・本部の内部統制のチェックを年間 5 回全店舗で行うように計画していますが、コロナ禍の状況などを踏まえ確認方法を工夫しつつ監査などを行っています。

#### 【確認結果】

- ・店長、サービスマネージャー及びフロアアテンダントは概ね環境活動を理解し定着している。
- ・省エネルギー・設備機器などの適正管理・省資源、ショールームの居心地、事務所の温度管理について換気が重要な状況であり管理が難しい状況が続いている。
- ・照明器具やエアコンフィルターなどの定期的な清掃がおろそかになっている店舗がある。エアコンの点検についてはフロン排出抑制法に則り 100%実施できている。
- ・ペーパーレス化への取組について、店長会議資料など本部から提供する資料の PDF 化や保険手続きのペーパーレス化を進めている。
- ・水の効率的な活用及び節水の意識は高く励行されているが、節水の呼びかけの表示をしていない店舗がある。
- ・大気汚染物質の排出抑制。店舗での理解度が相変わらず低く改善が必要。マツダの環境技術を採用した車両は、排出ガスもクリーンである。通常の点検・車検整備は、排気ガス抑制につながるものであるという意識を定着させていく。
- ・廃棄物の排出抑制、適正管理。産業廃棄物の排出は適正に管理されている。
- ・輸送に伴う環境負荷の低減。業務車両を使用し社用車の定期的な点検も実施、環境負荷の低減、エコドライブ、安全運転を励行している。試乗車によるデモ走行などは、マツダ車の魅力を知っていただくために必要であるが、使用燃料についても適切な給油管理をしていく。
- ・環境保全のための取組・体制の整備・環境教育、環境保全活動の推奨等、環境保全に関する情報提供や店舗内での共有方法が不十分な店舗がある。本部からのフィードバックが必要。
- ・自店舗エコ集計にて対前年数値などを店舗毎確認して、環境への取り組みを回せる仕組みをつくりたい。
- ・環境配慮型商品などの販売及び情報提供。環境技術が当たり前になっているが、伝える活動は常に必要である。常に最新の情報を提供できるように定期的な教育を行う。
- ・環境商品の拡販については全店舗において意識が高い。販売する完成品、部品など環境配慮型商品に変わって来ているのも一因と考えられる。

#### 報告等

- ・環境関連の集計入力に、相変わらず一部の店舗で入力漏れや遅れがある。デイリー入力を心掛け、まとめ入力しないよう働きかけていく。

## 10. 代表者による全体評価と見直し

### 1. 見直し関連情報

項 目	確認	：（必要に応じて評価・コメント記載）
1 エコアクション 21 文書	<input checked="" type="checkbox"/>	記録・文書として作成しました。
2 環境経営目標及び目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/>	未達項目が多い。
3 環境経営計画及び取り組み実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	継続して取り組みます
4 環境関連法規要求一覧及び遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/>	記録に記載いたしました。
5 外部コミュニケーション・対応記録	<input checked="" type="checkbox"/>	特に問題ありませんでした。
6 問題点の是正・予防措置の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	継続して取り組んで参ります。
7 取引先、業界、関係行政機関、 その他の外部動向	<input checked="" type="checkbox"/>	継続して取り組みます
8 その他（ ）	<input type="checkbox"/>	

### 2. 代表者による全体評価

エコアクション 21 の取り組みは、単独かつ独立したものではなく、平常の企業活動の中で常に意識し、改善を進める。SDGs、健康経営、コンプライアンス遵守、事故防止などの取り組みはもちろんのこと、サービス現場の課題を店舗全スタッフと役員が膝を突き合わせて話し合う場や、自社ブランドの独自性についてオフサイト形式で理解を深める場等、すべての活動の中で、環境意識の啓発に努めていく。

自動車業界は 100 年に一度の変革期と言われて久しい。加えて半導体の供給不足、コロナ禍に起因した海外部品の調達困難、レアメタルの高騰など、外部環境は自社の経営に対して予断を許さない状況ではあるが、環境経営については軸をぶらすことなく積み上げていく所存である。

2022 年 6 月 17 日  
静岡マツダ 株式会社  
代表取締役社長 鈿持 豊

### 3.代表者による見直し指示

見直し項目		変更の 必要性	「有」の場合の指示事項等
1	環境経営方針	無	
2	環境経営目標	無	
3	環境経営計画	無	
4	環境に関する組織 (実施体制含め)	無	
5	その他のシステム要素	無	
6	その他 (外部への対応)	無	